

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 8 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.7 m ³ /h	33.3	106.2 kPa abs	A系:0.02 vol% B系:0.06 vol%
		給水系：約 3.4 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.1 m ³ /h	46.4	14.62 kPa g	A系:0.15 vol% B系:0.14 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m ³ /h	54.9	0.27 kPa g	A系:0.16 vol% B系:0.15 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			

*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	23.0
2号機	循環冷却システム	停止中	24.4
3号機	循環冷却システム	運転中	23.5
4号機	循環冷却システム	運転中	35

【2号機】・6/8 10:14 頃 使用済燃料プール代替冷却系において、「一次系ポンプ(A)吸込圧力低」の警報が発生したため、一次系ポンプ(A)を手動停止(停止時 プール水温度:24.4℃)。現場を確認したところ、当該システムからの漏えいおよび、吸込ストレーナの詰まり等の兆候が確認されなかったため、11:32、同ポンプを再起動し、使用済燃料プールの冷却を再開(再開時 プール水温度:24.5℃)。なお、警報が発生した原因は、使用済燃料プールのイオン交換装置の樹脂交換後の水張り作業を行ったことにより、一時的に流量が変動し、ポンプの吸込圧力が低下したものと推定。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/27 14:34 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋 →	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/3 10:15 ~ 6/7 8:25 移送実施
6号機	6号機タービン建屋 →	仮設タンク	6/8 10:00 ~ 16:00 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/8 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以 上